

## ＜第11回 若林地域会議 会議録＞

日 時 令和8年2月27日（金） 19:00～20:45  
場 所 若林交流館 多目的ホール  
出席者 委 員 14名  
市 役 所 太田市長、地域活躍部 濱田副部長  
交通安全防犯課 田中担当長、多様性社会共創課 木下主査  
事 務 局 吉澤支所長、中野副支所長、松原副主幹、鈴木担当長  
倉地主査  
オブザーバー 太田市議、村中館長

---

---

### ○地域会議

#### 1 会長あいさつ〈省略〉

#### 2 報告事項

##### (1) 第10回若林地域会議会議録

高岡支所より報告

- ・報告事項で安全のみどり線の効果検証について、アンケート調査を実施すると話した。3月に全戸配布するため回答してほしい。また、近隣の方から質問があった場合はできるだけ回答してもらえよう促してほしい。

##### (2) 令和7年度若林地区「謎解き×防災フェスタ」実施報告書

高岡支所より報告

- ・目標来場者数を1,000人としていたが、最終的には522人となった。子どもが楽しみながら防災を学ぶ機会を創出できたが、広告不足等で目標人数には満たなかった。来年度は今年度の反省点を生かして、子どもが中心になるブースを設けるなど工夫して開催する。

##### (3) 「たかおかスプリングフェスタ」について

高岡支所より報告

- ・3月22日（日）の10:00～15:00に高岡コミセンにて、「たかおかスプリングフェスタ」を開催する。高岡支所としてはラリーに関するブースを用意している。ドライビングシミュレーター体験、R/Cカー走行体験などを実施するため、是非参加してほしい。

### ○市への提言

#### 1 開会／豊田市民の誓い〈省略〉

#### 2 会長あいさつ〈省略〉

#### 3 提言書提出・提言内容説明

会長から市長へ提言書提出

会長より提言内容の説明

・若林まちづくりビジョンにある目指す姿「暮らし続けたいまち・わかばやし」を実現するために以下の2点を提言する。

①防犯の充実「高岡中学校区の防犯マップの作成」

②あいさつでつながりを深める地域づくり「若林地域あいさつ標語コンクールの開催」

#### 4 市長あいさつ〈省略〉

#### 5 意見交換

事前質問に対する関係各課からの書面による回答への市長からの補足

〈質問 1〉

今回、若林地域として防犯マップを作成するが、豊田市全体として防犯マップを作成する予定はあるか。

〈市長〉どこの地域も様々な課題があり、その解決に向けて動いている状態。一旦若林地域として作成し、先行事例として他の地域に示すことで、防犯に対する課題を抱える地域は真似をして、徐々に横展開されていく。

〈質問 2〉

豊田市全体として防犯に関する取り組みはどんなことをしているか。

〈市長〉過去には、特殊詐欺はオレオレ詐欺に代表されるように、年寄りの問題となっていた。そこで警察、行政で高齢者を中心に対策を考えていたが、警察詐欺が出てきたことで、若い人が狙われるケースも出てきた。それによって全世代へ啓発をする必要がある。また、詐欺にあったことを家族に言えず、表に出ないケースもある。そういった点から根が深い問題と考えている。

〈質問 3〉

昨年10月に開催された国際首長フォーラムにて、外国人に対する取り組みとして保見ヶ丘の取り組みが紹介されていた。保見ヶ丘地域以外で取り組みがあれば教えてほしい。

〈市長〉国際首長フォーラムは38か国、64都市の首長が集まった。保見の取り組みとしては一般社団法人ジュントスという団体があり、保見団地に住み込みで様々な活動をしている。キーパーソンの方で農場を借りて農作業をやっている方が、隣で農作業をやっているブラジル人のグループとつなげてバーベキューなどを行っている。若林地域には外根自治区があり、外国人がたくさんいることが課題として捉えられがちだが、決してそんなことはないと思っている。音楽、踊りや食べ物などの言葉の壁を感じさせないようなものがもっとできればよいと思っている。

その他の質問

〈委員〉若林地域のこども会が徐々に減っているが、豊田市内の他の地域ではどの程度存続しているのか。

〈市長〉旧来のこども会のように、親が役員を担うというスタイルは成り立たないと思

っている。親も働いており、働き方も様々ある中で旧来のこども会を維持するのは難しい。ただ、こども会をやめてしまうと、こどもにとっては学年を超えた縦の人間関係を築くこと、社会とのつながりを作る機会をなくしてしまう。そこで自治区の中に取り込んで、こども会部会を作ってはどうかと思っている。役員は自治区の役員ではなく、こども会の役員経験者で、こどもは卒業しているがもう一度関わりたいと思っている人に担ってもらえばよいと思っている。また、自治区の中に取り込むことによって自治区がこども会の動きを見るようになり、地域とこどもが接点を持つ機会になる。高齢者クラブも同様である。ただ、自治区の役員に負荷がかかるやり方だけは避ける必要がある。

〈委員〉外根自治区は市子連からは脱退したが、こども会の会費を集めず自治区のお金で運営している。外根に住んでいる子は全員会員ということで、行事には来れる人が来る、親は手伝える人が手伝えるタイミングで手伝うという形でやっている。

〈市長〉高齢者クラブでも同様に会費は取らず、住んでいる人はみんな会員としている地区もある。旧来のやり方を変えたからと言って、補助金が出なくなるというのはおかしい。市が仕組みを変えていくべき。

〈委員〉保護者に押し付けないという運営方法はすごく良いと思う。名古屋市だとNPO団体にコーディネートを任せているというニュースを見た。例えば地域の中で役員を担ってくれる人が見つからなかった場合に、NPO団体や市の団体でコーディネートをしてくれる人の支援があると、より今の内容に厚みが出るかと思う。

〈市長〉今ある豊田市の仕組みをどのように使うかが大事。市役所側が決めた通りにやるのではなく、地域が指導して仕組みを変えるという方法もある。名古屋市のNPOは豊田市で言えば地域共働本部にあたる。あとは地域共働本部の活用方法なので、地域の知恵の出どころだと思う。

〈市長〉豊田市はヘルメットの購入補助をしている。今までは補助金を1回しか使えないとしていたため、小中学生のときに補助金を利用すると、高校生のときに補助金を利用できない制度になっていた。令和8年3月から2回目の申請も可能となるよう制度を変更した。

〈委員〉若林の自主防災隊としては、要支援者に対して非常食を用意しようと考えている。現状、非常食を備蓄するための防災倉庫は若林東公園、若林公園にはあるが、若林西公園にはない状態。そのため、それぞれ均等に備蓄するために予算が必要だが、補助金が足りない。補助金制度を見直すことは考えているか。

〈市長〉自治区ごとに個別で用意するのは難しい。おすすめは食料品を扱う企業と協定を結ぶこと。豊田市は豊田警察署の側にあるドン・キホーテと協定を結び、有事の際には優先的に物資を提供するようにしている。ただ、大きな地震が来た時には早々にパンクすることが予想されるため、ある程度の備蓄は必要かと思う。

〈委員〉協定を結ぶ際、どれくらいの支援を受けるようにするのかは自治区ごとに考える必要があるのか。

〈市長〉協定を結ぶ際には具体的な部分は必要ない。まずは自分たちでできることは事前に準備をするというのが大事、その後どうにもならないときのために手を打っておくという考え方が必要。

〈委員〉大規模災害発生時に物資を移動させる必要があるかと思う。そのためには道路の整備が問題になるかと思うが、道路についてどのように考えているか。

〈市長〉道路には優先順位がつけてあり、物資の移動に必要な道路を優先的に整備するという考え方はある。今はIT技術の向上により、車載器にセンサーから情報を得る通れる道マップというものがある。そういう技術も有事の際には生かされると思う。

〈市長〉豊田市内には3,700kmの水道管が張り巡らされている。水道管は老朽化が進んでおり、更新をする必要がある。旧来の確認方法は機材を使って音で漏水しているかどうか判断していた。それを3,700kmは時間を要するので、豊田市は宇宙の衛生から漏水箇所を特定するやり方をしている。さらに管路の老朽に関するビックデータをAIで分析して、漏水の可能性を5段階評価するという取り組みを全国に先駆けて実施している。これは総理大臣賞をもらった取り組みになる。また、最近始めたのが、車に赤外線センサーを搭載し、路面の温度の変化によって漏水箇所や空洞箇所を察知する取り組み。加えて、小型のドローンを下水道管の中に入れて、管の状態を見るという取り組みをやっている。

## 6 市議あいさつ〈省略〉

## 7 集合写真撮影

### ○地域会議

## 3 副部長あいさつ〈省略〉

### ★次回開催

第12回定例会：令和8年3月27日（金）午後7時から 場所：若林交流館多目的ホール